

## 産科医療補償制度 第100回原因分析委員会 議事要旨

日時：2022年6月14日（火） 16時00分～17時45分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、川田綾子、楠田聡、佐藤昌司、  
下屋浩一郎、鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、豊田郁子、  
前田津紀夫、馬目裕子、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

### 議事概要：

#### 1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2022年5月末時点で累計3,235件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、コロナ禍の影響で一時期減少した報告書の作成・送付件数が以前の水準に戻ったこと、一方で審査結果通知から報告書送付までの期間（以下、「報告書作成期間」）が長くなっているため、早期に報告書作成期間を概ね1年に短縮できるよう取組んでいること等が報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2022年5月末時点の累計実施件数120件、改善要望項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が最も多いこと等が報告された。

○別紙対応における日本産婦人科医会による改善取組み支援の活用促進のため、支援を受けた分娩機関の感想等を紹介した「別紙（要望書）」フォームの改定が報告された。

#### 2) 原因分析報告書の公表・開示および原因分析のデータ等を活用した研究等の状況について

○原因分析報告書要約版は、現在、同意取得を行うことなく全件一律に公表を実施していること、および、以前同意取得を行った時期に不同意の意思表示を受け未公表としていた要約版については、改めて公表に理解を求める取組みを行い、取組み継続中の数事例を除き公表済みであることが報告された。

○原因分析報告書全文版（マスキング版）については、開示方法を変更した2015年11月以降2022年4月末までに13件の利用申請で延べ3,241事例の報告書を開示したこと等が報告された。

○産科制度データに関し、医学系研究においてより利用しやすくするために、新たな開示項目として、原因分析報告書の「脳性麻痺発症の原因」のデータを追加することで検討を進めていることが報告された。

○再発防止ワーキンググループとして取りまとめた2点の論文が、2022年1月および3月にそれぞれ医学誌に掲載されたことが報告された。

#### 3) 「今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項」に用いる表現の見直しについて

○原因分析報告書の「今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項」に用いる表現について、推奨レベルの段階の絞り込みと使用する用語等について審議され、決定された。

以上